



2022年10月25日

各 位

会 社 名 株式会社 島 精 機 製 作 所
 代 表 者 名 代表取締役社長 島 三 博
 (コード番号 6222 東証プライム)
 (問合せ先) 取締役執行役員経理財務部長 南 木 隆
 (TEL 073-471-0511)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2022年5月10日に公表しました業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 2023年3月期連結業績予想の修正

(1) 2023年3月期 第2四半期(累計) 連結業績予想数値の修正(2022年4月1日~2022年9月30日)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に帰属 する四半期純利益	1 株 当 たり 四 半 期 純 利 益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	21,500	100	300	100	2.90
今回修正予想 (B)	17,900	△440	△210	△510	△14.78
増減額 (B-A)	△3,600	△540	△510	△610	—
増減率 (%)	△16.7	—	—	—	—
(ご参考)前年同期実績 (2022年3月期第2四半期)	15,814	△1,558	△844	△1,068	△30.96

(2) 2023年3月期 通期連結業績予想数値の修正(2022年4月1日~2023年3月31日)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1 株 当 たり 当 期 純 利 益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	47,000	1,000	1,600	1,200	34.77
今回修正予想 (B)	44,500	1,000	1,600	800	23.18
増減額 (B-A)	△2,500	—	—	△400	—
増減率 (%)	△5.3	—	—	△33.3	—
(ご参考)前期実績 (2022年3月期)	30,998	△4,296	△3,400	△3,589	△104.00

2. 2023年3月期個別業績予想の修正

(1) 2023年3月期 第2四半期(累計) 個別業績予想数値の修正(2022年4月1日~2022年9月30日)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	四 半 期 純 利 益	1 株 当 たり 四 半 期 純 利 益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	17,000	△500	△200	△300	△8.69
今回修正予想 (B)	14,200	△1,250	△820	△850	△24.63
増減額 (B-A)	△2,800	△750	△620	△550	—
増減率 (%)	△16.5	—	—	—	—
(ご参考)前年同期実績 (2022年3月期第2四半期)	12,876	△1,570	△925	△939	△27.22

(2) 2023年3月期 通期個別業績予想数値の修正 (2022年4月1日～2023年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	39,000	0	700	500	14.49
今回修正予想 (B)	36,200	△1,200	△700	△900	△26.08
増減額 (B-A)	△2,800	△1,200	△1,400	△1,400	—
増減率 (%)	△7.2	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (2022年3月期)	24,365	△4,080	△3,429	△3,783	△109.63

3. 修正の理由

当第2四半期累計期間は、欧州市場において経済活動の再開にともない設備投資需要が増加し、またバングラデシュ等においては大手アパレルからの受注が回復傾向となり、コンピュータ横編機の受注が拡大しました。一方、主要マーケットの一つである中国市場においては、上海市のロックダウンなどゼロコロナ政策にともない企業活動や生産設備投資が停滞し、ホールガーメント横編機を中心に販売が低調となりました。さらに世界的なサプライチェーンの混乱や原材料調達難の影響により、一部生産活動に支障が生じ納期が確定できないなど、全体の売上高は当初の想定を下回る見込みとなりました。

また売上高の低下に加えて、コロナ禍を背景とした部品や原材料価格の高騰、さらに世界的な海運輸送コスト高の影響などにより、各利益段階とも期初予想を下回る状況が見込まれることから第2四半期業績予想値（連結・個別）を修正いたします。

なお、世界的な半導体その他原材料の供給不足の解消については、第4四半期以降には改善に向かい販売活動に寄与すると見込んでおります。また、欧州市場を中心に設備投資の需要は堅調に推移しており、さらに中国市場においては、政府支援の効果等により個人消費や生産活動が徐々に回復すると見込まれ、下半期においては海外子会社の業績改善を中心に当初計画を上回る状況が想定されます。

以上のことより、通期連結業績においては、期初予想に近い黒字を確保できる見通しですが、売上原価へのコスト高の影響が大きい通期個別業績においては、期初予想を下回る見込みです。下半期における想定為替レートは1ドル135円、1ユーロ135円としております。

(注) 上記業績予想につきましては、現時点において入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績等は今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

以上